

公立一貫入試対応入試  
2月2日



2016年度

宝仙学園中学校共学部 理数インター

公立一貫入試対応入試問題

# 適性検査Ⅰ

2月2日実施／公立一貫入試対応入試

## 【注意事項】

1. 試験時間は45分です。
2. 問題は1ページから4ページまであります。
3. 解答はすべて、解答用紙に「たて書き」で記入してください。
4. 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 設問に字数制限がある場合には、句読点も字数に数えます。

深呼吸してみよう！落ち着いて力を出し切ってください。



宝仙学園中学校共学部 理数インター

一 次の文章1・文章2を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、文章1は、高校に通わずに大学の先生になった人が書いた文章で、文章2は、高校に通うべきだということを説明している人が書いた文章です。

#### 文章1

独学に向き不向きはあるのだろうか、と聞かれることがあります。性格的なものは、ある程度あるだろうと思いますね。独学の<sup>※</sup>メリットは、くり返しになりますが、自分で自由にペース配分を決められるということです。けれども、一方では、誰も<sup>だれ</sup>ペース配分を強制する人はいないので、ついだからととしてしまったりとか、うまく自分でリズムが作れなかつたりということは副作用として起きるのだと思うんです。そういう中で、うまく自分のペースを<sup>つか</sup>掴んでいける人と、そういうのは苦手で、外からペースを<sup>あた</sup>与えてくれるほうがいい人というのは、ある程度あるのだろうなと思います。

ただ、誰でもどうしても勉強をしないといけない時はやるしかないわけで、そこは<sup>みんな</sup>皆きつと同じだし、それから、自分のペースでやったほうが頭に入るというのも、きつとかなりの人がそうだと思うのです。そう考えると、実は、多くの人が思っているよりも、ずっと自分で勉強することのメリットは大きいのではないかと思います。

ぼくはたまたまこういうことを、高校とか大学とか<sup>※</sup>根幹の学校教育のところでもやりました。けれども、そういうところでもなくても、趣味の世界だったり、副業だったり、あるいは次の<sup>ちが</sup>違う職業に就くための勉強だったり、いろんなところで、勉強したいと思うことはけっこう多いと思うんですね。そういう時には学校に行くというのも一つの<sup>せんたくし</sup>選択肢ですけれども、自分で少し勉強してみるというのも、きつとひとつのよい選択肢なのではないかと思うんです。

そうすると、わざわざ学校に行ったりする手間もかからないし、それから、わざわざ専門学校に入るための苦勞もしなくてすみますから、人生の選択肢が増えます。いろんな場面で、自分のやりたいことを少し勉強してみる。そこから少し進んでみて、この方向が面白そうだと思ったら、副業でもたとえばそこをつきつめてみるとか、あるいは、そちらの方向へ転職してみるということもありうると思います。(略)

どうしても学校へ行かなければならない、となると、ずいぶん<sup>はば</sup>幅が狭くなってしまうので、少しその点は自由に考えてもいいんじゃないかと。あまり「日本は」という言い方は好きではないのですが、海外でいろいろなものを見てくると、日本での、「きちんと型にはまった学校

へ行き、卒業証書をもたらって、一通りの知識を身につけないと希望している職業には進めない、考えている進路には進めない」というものが見方は、ずいぶん窮屈きゆうくつなように思えます。そんなふうに考えてしまうと行き詰づまってしまう気がします。

(柳川範之「独学という道もある」より 一部改訂)

(注) メリット……利点。長所。

根幹……ものを成り立たせている、いちばんおもとの部分。

## 文章2

ついこの間のような20年(！)あまり前、私は「中高一貫校」の高校生でしたが、3年生になってやっと授業の選択ができるようになりました。(略)

そんなにかつがツ受験を意識させるような高校ではありませんでしたが、それでも高校生活も中盤ちゅうばんに差し掛かかると、自おのずと志望する方向が固かたまっています。にもかかわらず、私立文科系しか見えないという人でも、歯を食いしばって物理の授業で、ドブラー効果を計算していましたし、どう転んだって理科系という人でも、膨大な日本史の配布資料はうだいと格闘かくとうしていました。それはそれで、高校の勉強というのは皆そんなもんだと、当時は疑問に思いませんでした。

選択する授業を決めたときのことです。国立理科系志望であれば、数学や理科の授業を選択するのが当然だとは思っていましたが、それ以外の授業のほう面白そうなんです。本音のところでは、先生の手作りプリントで進められる文科系向きの英語の授業に惹かれていて、受けられる人たちが羨うらやまましかったのですが、仕方がないと諦あきらめました。結局文科系に転じて経済学部を受験することになるんだったら、あの英語の授業が受けたかったなと今でも悔くやまれます。

長々と思いい話をしてしまいました。要はこういうことなんです。私の場合は、高校の方針でコース選択のタイミングが遅おそく、「不要な」科目まで勉強することを強しいられました。デメリットは明白です。受験には不利、ということ。では、メリットはあったのか？ あったと思います。今なら自信を持ってそう言えます。でも、そのときは見えなかった。今でも「じゃ、具体的に羅列られつしてみい」とまで言われたら、返答に窮きゅうしそうですから、「近視眼的」ではまず見えません。

私自身の感慨かんがいを言葉で伝えるのにためらいもありますが、文法を教えてもらえないままひたすら英文を読んだこととか、化学の実験レ

ポートを毎週のように提出したこととか、「アンチ受験」としか言いようのない教育が、気づかぬうちに学ぶことそのものの幹を太らせていたのかなと思うのです。(略)この幹が立派であれば、枝葉はいつでも自分で伸ばせるものなんですよ。

昔も今も、我が母校のようにのんびり構えた高校は基本的に少数派だと思います。では、昨今の多数派はどんな状況じょうきょうなのでしょう。この点について象徴しょうちやう的だったのが、2006年の秋に発覚した「未履修問題」です。高校の必修科目である世界史や情報、芸術、保健などが、他の科目に置き換えられていたことが次々に明るみに出た結果、受験間際の3年生が、卒業要件を満たすために補習やレポートを課されるなどの大変な騒さわぎになりました。

この問題の背景には、「ゆとり教育」をうたった新学習指導要領によって授業時間数が不足しているという事実があったことは、否いなめません。だからこそ、高校は「近視眼的」に受験だけを視野に入れて、科目に優先順位をつけざるを得なかった部分があるのです。

「近視眼的」という表現をいい意味で使っていないのはもちろんですが、このような高校の決断にもメリットとデメリットがあります。メリットは明白です。受験には有利、ということ。デメリットはあったのか？ 話の流れからいけば、幹を細らせた……と言いたいところ。しかし、残念ながらその実証は容易ではありません。

各自が実感することがあるにしても、恐らく卒業後何年も経たってからです。目先のメリットである「大学合格実績」の前では、先々の、それもあるかどうか分からないデメリットなど物の数ではありません。

(浦坂純子「なぜ『大学は出ておきなさい』と言われるのか」より 一部改訂)

(注) 文科系……自然科学以外の学問分野。文学・歴史・哲学・法律・経済など。

ドブラー効果……遠ざかると音が低く聞こえる現象。

理科系……自然科学に関する学問分野。数学・物理・化学・生物・地学・天文学など。

デメリット……欠点。短所。

羅列……ずらりと並べること。

返答に窮きゅうしそう……返答に困りそう。

近視眼的……さしせまったことにとらわれて、全体のことが見えないようす。

感慨……しみじみと心に深く感じること。

英文……英語で書かれた文。

アンチ……「〜に反対の」「〜でない」などという意味をあらわす。

履修……決められた学科・課程などを習い修めること。

学習指導要領……文部科学省が示す教育課程の基準。

否めません……否定できません。

問一

文章1の中で、「学校に通わない」ことよりも、「学校に通う」ことを選択するべき人は、どのような人だと述べられていますか。

文章1の中から抜き出しなさい。

問二

文章2の中で用いられている「幹」と「枝葉」という<sup>ひゆ</sup>比喩は、どのようなものごとを表している比喩ですか。それぞれ答えなさい。

問三

文章1・文章2を読んで、「学校に通う」ことの「メリット」と「デメリット」をそれぞれ説明しなさい。

問四

文章1・文章2をふまえて、あなたが中学校に入学してから、「学ぶこと」に対してどのような考え方を大切にすべきですか。

三五〇字以上、四〇〇字以内で、あなたの考えを書きなさい。なお、次の「きまり」に従いなさい。

〔きまり〕

- ・ 題名は書きません。
- ・ 最初の行から書き始めます。
- ・ 「、」「や」「。」「も」それぞれ字数に数えます。
- ・ 段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。
- ・ 最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。